

住民の命とくらしを守る治水対策の推進

11 住み続けられるまちづくりを



13 気候変動に具体的な対策を



- ▶ 頻発化・激甚化する水害に対して、住民の命とくらしを守るため、ハード・ソフトの両面から治水施策を更に推進することができるよう、支援の拡大を図りたい。

1. 提案・要望内容

【提案・要望先】総務省、財務省、国土交通省

(1) 治水事業等関連費の予算枠の拡大

- 防災・減災、国土強靱化の更なる推進のための治水予算枠の拡大

(2) 「流域治水」の推進に向けた施策の充実・強化

- 水災害ハザードエリアにおける安全な土地利用・住まい方の実現
- 既存ダム等における事前放流のさらなる推進

(3) 淀川流域全体の安全度向上に向けた治水対策の推進

- 気候変動を踏まえた治水対策の推進と流域全体での治水安全度の向上
- 天ヶ瀬ダム再開発事業完了に伴う操作規則の見直しの検討

(4) ダム水源地域における活性化の推進

- 丹生ダム中止に伴う水源地域振興に向けた地域整備等に対する支援
- 大戸川ダムにおける付替道路の令和3年度完成等による水源地域振興の推進

<国土交通省の概算要求等の状況> 【概算要求】

- | | |
|------------------------------|--------------------|
| ・あらゆる関係者により流域全体で行う「流域治水」への転換 | 5,027億円（対前年比1.04倍） |
| ・地域における総合的な防災減災対策等に対する集中的支援 | 7,847億円（対前年比1.00倍） |

2. 提案・要望の理由

(1) 治水事業等関連費の予算枠の拡大

- 全国各地で大規模な水害が頻発する中、国土強靱化地域計画に基づく対策を早急に進めるため、3か年緊急対策後においても、別枠予算の継続・拡大、地方債（緊急自然災害防止対策事業債）による支援の継続が必要。

(2) 「流域治水」の推進に向けた施策の充実・強化

- 浸水リスクに応じた安全な土地利用等の実現のための支援拡充が必要。
- 既存ダムでの事前放流に伴う損失補填制度の拡充が必要。琵琶湖においても湖辺域の浸水リスクの低減を図るため、事前放流の実施に向けた検討が必要。

(3) 淀川流域全体の安全度向上に向けた治水対策の推進

- 気候変動による災害リスクが増大する中、琵琶湖周辺の浸水被害も考慮し、流域全体で大戸川ダムや瀬田川(鹿跳溪谷)整備などのさらなる治水対策が必要。
- 琵琶湖周辺の浸水被害軽減のため、天ヶ瀬ダム再開発による放流能力増強を活用し、天ヶ瀬ダム・瀬田川洗堰の操作規則を見直すことが必要。

(4) ダム水源地域における活性化の推進

- 丹生ダム中止に伴う水源地域の振興のため、地域の取組等に対する国の支援が必要。
- 大戸川ダム付替道路の令和3年度完成および交通機能確保のための交差する県道との接続道路の早期着手が必要。

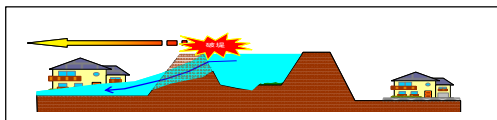
(本県の取組状況と課題)

(1) 治水事業等関連費の予算枠の拡大

○防災・減災、国土強靱化の更なる推進のための治水予算枠の拡大

- ・本県には破堤した際に被害が甚大となる天井川など堤防の高い河川や交通幹線の横断構造物が多く、**氾濫区域内に市街地があるものの10年に1度の洪水に対応できていない河川が120河川**ある。
- ・このため、3か年緊急対策の措置や県単独費の増額により、治水事業の拡大を図ってきたところであるが、更なる改修事業の推進が必要
- ・国において、今後も国土強靱化緊急対策の更なる推進に向けて別枠予算と緊急自然災害防止対策事業債（地方債制度）による継続的な支援が必要

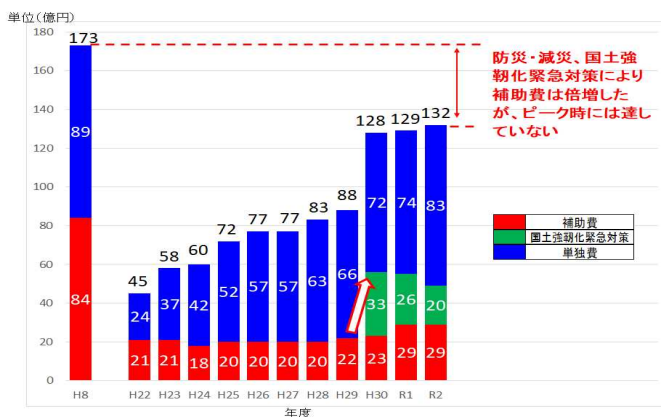
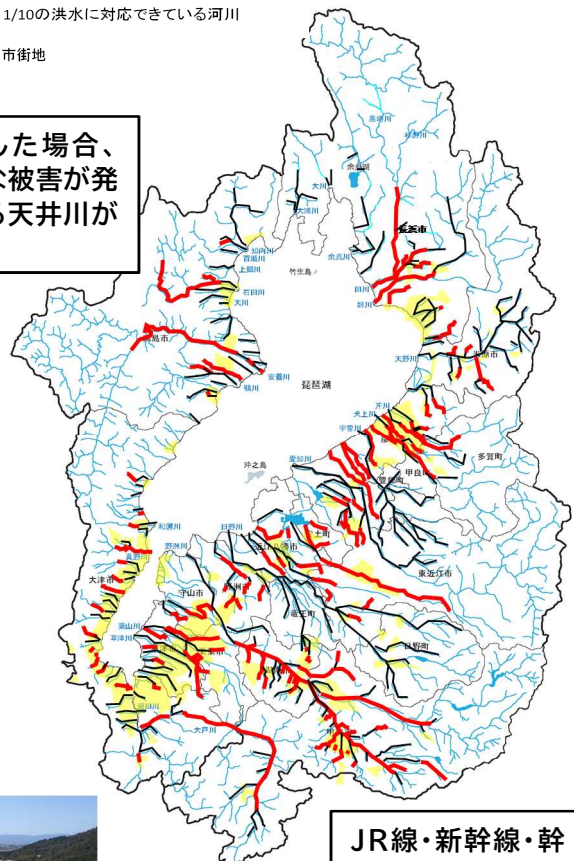
天井川の切下状況 金勝川(栗東市目川)



氾濫区域内に市街地があるものの10年に1度の洪水に対応できていない河川(120河川)

- 1/10の洪水に対応できていない河川
- 1/10の洪水に対応できている河川
- 市街地

破堤した場合、甚大な被害が発生する天井川が多い！



河道掘削、樹木伐採 野洲川(湖南市石部)



JR線・新幹線・幹線国道・高速道など、多くの交通幹線と交差しており、橋梁などを伴う河川改修に多大な費用が必要！

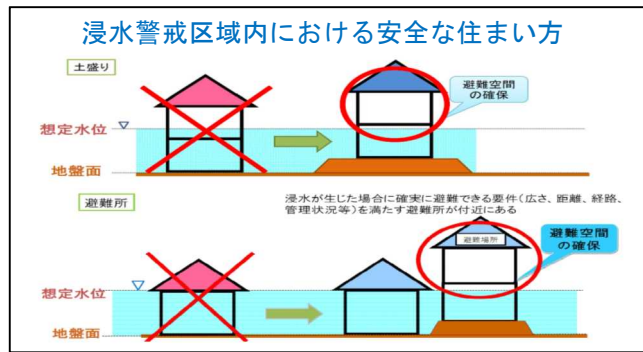
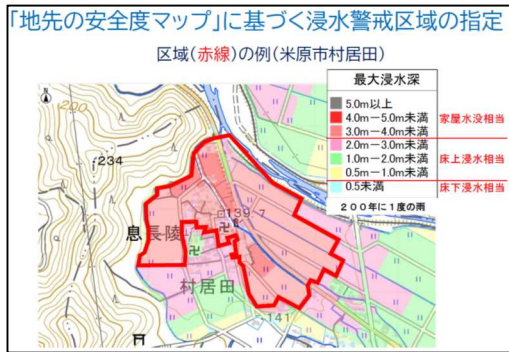
担当：土木交通部流域政策局 河川・港湾室
TEL 077-528-4157

(本県の取組状況と課題)

(2) 「流域治水」の推進に向けた施策の充実・強化

○水災害ハザードエリアにおける安全な土地利用・住まい方の実現

- ・本県では、河川整備を基幹的対策とし、森林等の雨水貯留浸透機能の確保、浸水リスクの高い地域での建築制限、確実な避難のための計画策定などの対策を重層的に組み合わせ施策展開
- ・特に、安全な土地利用・住まい方の実現に向け
 - ✓ 浸水リスクが高く人命にかかわる場所（200年に一度の降雨で3m以上）は浸水警戒区域に指定し、安全な避難空間を確保できるよう建築を制限
 - ✓ 区域内における新たな建築を抑制する一方で、既存住宅における宅地嵩上げや避難場所整備の支援によりコミュニティーを維持



- ・浸水リスクに応じた安全な土地利用等の実現のため、災害危険区域などの「レッドゾーン」やこれ以外の「イエローゾーン」など水災害ハザードエリア指定の考え方の明確化および土地利用の誘導方策等の検討、宅地嵩上げを含む安全な住まい方への取組に対する財政支援の拡充が必要

○既存ダム等における事前放流のさらなる推進

- ・多目的ダムの事前放流に伴う損失は、あらかじめ予測ができず、また、発生した場合の財政負担も大きいことから、損失補填制度の県所管ダムへの拡充が必要
- ・氾濫を防ぐため流域のあらゆる関係者が取組む中、琵琶湖においても、湖辺域の浸水リスクの低減を図るため事前放流の実施に向けた検討が必要
- ・利水ダムに治水機能を持たせることから、当該ダム諸量（放流量、貯水位、流入量など）を含めた河川管理者による一元的な情報発信のため、情報基盤の整備充実が必要

担当：土木交通部流域政策局 流域治水政策室
TEL 077-528-4290

(本県の取組状況と課題)

(3) 淀川流域全体の安全度向上に向けた治水対策の推進

- 気候変動を踏まえた治水対策の推進と流域全体での治水安全度の向上
 - ・治水安全度の低い淀川上流域は、気候変動に伴う水害の頻発化・激甚化に対応して、**大戸川ダム・瀬田川(鹿跳渓谷)の早期整備、天ヶ瀬ダム再開発の早期完了が必要**
- 天ヶ瀬ダム再開発事業完了に伴う操作規則の見直しの検討
 - ・天ヶ瀬ダムの放流能力を最大限活用し、**瀬田川洗堰の全閉時間を短縮し制限放流量を増加**するよう操作規則を見直すことにより、琵琶湖周辺の浸水被害軽減が可能
- 社会経済的被害が甚大となる河川での直轄による事業推進

平成30年 西日本豪雨
最高水位：BSL+77cm



琵琶湖沿岸部の家屋や田畑で
浸水被害が発生！

平成30年 西日本豪雨
瀬田川(鹿跳橋)



鹿跳渓谷対策により、瀬田川洗堰
からの放流量の増加が期待される

天ヶ瀬ダム再開発、大戸川ダムの整備
に合わせて、瀬田川(鹿跳渓谷)の河
川整備を行うことで、琵琶湖ピーク水
位の低下や速やかな水位低下に対し、
より効果が上がる。

天ヶ瀬ダム再開発事業の完了
→天ヶ瀬ダム放流能力の増強
(840m³/s→1,140m³/s)
→瀬田川洗堰制限放流量の見直し
・予備放流時：200m³/s
・後期放流時：300m³/s



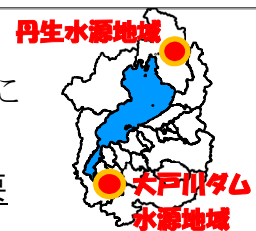
天ヶ瀬ダム放流能力に
応じた見直し検討を！



担当：土木交通部流域政策局 広域河川政策室
TEL 077-528-4274

(4) ダム水源地域における活性化の推進

- 丹生ダム中止に伴う水源地域振興に向けた地域整備等に対する支援
 - ・水源地域振興の根幹となる**県道中河内木之本線の早期整備が必要**
 - ・ダム予定地やその背後の残存山林について、**円滑な引き受けが出来るよう支援・調整が必要**
 - ・ダム中止に伴う地域振興は、地域による主体的な取り組みに対し、**交付金など引き続き支援が必要**



- 大戸川ダムにおける付替道路の早期完成等による水源地域振興の推進



- ・狭小な**県道大津信楽線**の改良は地域の期待が大きい
が、整備に長期間要していることから、**令和3年度
には完成**するとともに、交通機能確保のための**県道
栗東信楽線との接続道路の早期着手が必要**

担当：土木交通部流域政策局 水源地域対策室
TEL 077-528-4171